

## ブルーギルの根絶に向けた繁殖技術の開発

山口寿哉・石川卓・栗田潤・奥宏海・正岡哲治・岡本裕之（水研センター増養殖研）

平成 26 年度より環境研究総合推進費の新規研究課題「遺伝子編集技術を用いた不妊化魚による外来魚の根絶を目的とした遺伝子制圧技術の基盤開発」を実施している。この課題ではメスだけを不妊化した遺伝子を持つブルーギル (*Lepomis macrochirus*) を遺伝子編集により作り出すことを研究目的の一つとしている。遺伝子編集を行う為には人工授精により卵を入手する必要がある為、まずはブルーギルの採卵と人工授精を試みた内容について紹介する。また、不妊化したメスは卵を作ることができない為、次世代を残すことができない。このままでは不妊化魚を作り出す為には多大なコストが必要となる。この問題を解決する為に現在試験中の三倍体魚の作成、雑種の作成についての研究内容も紹介する。

本研究は、環境省「環境研究総合推進費」の援助を受けて実施している。

(参照)[http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/kadai/new\\_project/pdf/4-1408.pdf](http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/kadai/new_project/pdf/4-1408.pdf)